

浄土真宗本願寺派 第25代専如門主

# 伝灯奉告法要

宗祖・親鸞聖人があきらかにされた「浄土真宗のみ教え」が、聖人から数えて第25代となる専如ご門主に伝えられたことを、仏祖の御前に告げるとともに、お念仏のみ教えが広く伝わることを願い、伝灯奉告法要が平成28年秋から29年春にかけて1日1座、80日間勤められます。



## 伝灯奉告法要 日程

### 2016(平成28)年

第3期 11月 4日(金)～11月11日(金)  
第4期 11月18日(金)～11月25日(金)

皆様のご参拝をお待ちしております

### 2017(平成29)年

第5期 3月 7日(火)～ 3月14日(火)  
第6期 3月28日(火)～ 4月 4日(火)  
第7期 4月11日(火)～ 4月18日(火)  
第8期 4月25日(火)～ 5月 2日(火)  
第9期 5月 9日(火)～ 5月16日(火)  
第10期 5月24日(水)～ 5月31日(水)

※各日における法要は、1日1座(午後)とし、本山において修行される。ただし、2017(平成29)年4月18日に限り、大谷本廟において修行される。

## 新職員紹介

四月一日付で二人が入所いたしました。よろしくご指導いただきますようお願いいたします。



小森 萌 (中川北組 祐国寺門徒)  
天野 裕彰 (滋賀教区神崎組 西照寺)

## 退職者報告

三月三十一日付で退職いたしました。  
吉田 京子 (臨時勤務員)

## お知らせ

### 岐阜別院『報恩講法要』のご案内

十二月四日(日) 日中法要 午前十時より 速夜法要 午後一時より  
十二月五日(月) 日中法要 午前十時より 速夜法要 午後一時より 初夜法要 午後七時より  
十二月六日(火) 日中法要 午前十時より  
講師・滋賀教区滋賀組福田寺 本願寺派布教使 佐々木 義英 師

## 報恩講『聞法のつどい』

十二月六日(火) 報恩講日中法要引き続き 講師 ・西濃南組浄円寺 本願寺派布教使 富田 祐尊 師  
・飛騨組眞光寺 本願寺派布教使 森下 広大 師  
・本年度報恩講法要講師 佐々木 義英 師

## 「平成28年熊本地震災害義援金」宗派受付窓口

郵便振替 〇一〇〇〇・四・六九九五七 加入者名 たすけあい募金 通信欄に「熊本地震」とご記入ください

## 編集後記

今年、教区・ご本山において、大きな法要が相次いでお勤めになられています。岐阜別院において、5月27日の第25代専如門主ご巡回・岐阜別院ご巡拝に始まり、28・29日の両日は「岐阜教区親鸞聖人750回大遠忌法要」が、専如門主ご親修のもと、盛大にお勤めになりました。ご本山では、10月1日より、第25代専如門主伝灯奉告法要が始まりました。専如御門主の法灯継承御奉告をお祝いし、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」道を私達ひとり一人が歩むことの決意を新たにさせて頂く法要ではないかと思えます。また、今年の天候を振り返りますと、ますます、変動が激しくなっているように思われます。「経験したことのない大雨」や次々に発生し多くの被害をもたらした台風、「パリ協定」が実効力を発揮されるよう、国際的な協力が求められるところです。 合掌

# 声の仏念

編集・発行：「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会広報部  
〒500-8882 岐阜市西野町3丁目1 電話(058)262-0231 FAX(058)263-7353  
http://www.hongwanji-gifubetsuin.jp/ E-mail:info@hongwanji-gifubetsuin.jp

2016(平成28年)11月1日発行 vol.238



第25代専如門主 岐阜教区ご巡回 本願寺岐阜別院ご巡拝(期日：5月27日)

## 如燈風中



岐阜教区教務所長  
御同朋の社会をめざす運動  
岐阜教区委員会委員長

河村 信昭

第二十五代専如門主の伝灯奉告法要が、去る十月一日から始まりました。岐阜教区に於きましても各組より既に参拝いただき、明年五月末日の結願まで六千五百余名の方々がご縁を結んでいただくことをうれしく思うことです。

私は、一九八〇年にお勤まりになった前門様のご法要は、ブラジルに開教使として駐在させていただいており、五十年六十年振りに初めて訪日され、ご本山に参拝される歓びに満ちたお姿に、開拓のご苦労をにじませながらも、どんな中にも常に護り捨てることなく見て下さる親様、親様とならうと生き抜かれた。親鸞聖人のみ教えの力強さを思い知らされることでした。あの時代、日本は高度経済の成長期にあり、ブラジルも未来に希望を託せる時代でありました。

今、時代は様変わりしているように思います。わが国では、人口の高齢化と地方の過疎化が急速に進んでいます。全国に仏教寺院は、七万七千余りあります。そのうち西本願寺のお寺は、一万二百余りありますが、次の敬様の時代は、如何だろうか。近い将来に日本の人口は、半減するとの予測もある。お寺もその例に漏れることはないだろう。

ご門主様は、ご法要の中で「ありのままの真実に背いて生きている私たちの無明煩惱が社会・家庭の混乱を造っています」

と説き、親鸞聖人のみ教えを拠り所として生きることを求め、受け継いだみ教えが、一人でも多くの方々に伝わるよう力を尽くすと述べられています。私たちもご門主様と共に力を尽くしていかねばと思うことです。



# いつもと変わらないことの 大切さ

〜教徳寺キッズ・サンガ〜

今年度、岐阜教区子ども若者ご縁づくり推進委員会委員長の任を受けました、黒野組教徳寺の山田です。

子ども若者ご縁づくりは、先の大遠忌法要に伴う宗門長期振興計画の中にありまして、「キッズ・サンガ」の発展型であり、この度の第25代専如門主伝灯奉告法要を機に発足されました。宗門総合振興計画の基本方針中にある、「御恩報謝の日暮らしと次世代へのお念仏を相続する」という理念をもとに、「次代を担う人の育成」の活動をより発展させることを目指す活動です。

キッズ・サンガでご縁をつくってきた中で、最初の方の参加者の中には、すでに成人して社会に出ている子どもも多くいます。また、残念ながらまだにご縁を持っていない青年層の人達も多くいます。そういった若者達へアプローチの手を少しでも広げようといった取り組みと取っていただければ良いと思います。

特に10代後半から40代ぐらいまでの青年世代というのは、進学や就職・結婚・出産など、様々な生活の変化の渦中にあり、その中で「生きづらさ」を抱える若者も少なくありません。そういった若い人達に少しでも心の拠り所となるみ教えを伝える手立てになるように、と云うのが子ども若者ご縁づくり活動の基本姿勢です。

そんな理念をベースに行っている、

教徳寺の日曜学校やサマースクールの事例を紹介させていただきます。

基本的に教徳寺のサマースクールは、日曜学校に通う子供達を中心に募集をしています。

日曜学校は月に一度だけですが、第一日曜日の午後1時から1時間程度の活動となります。みんなで揃ってお勤めをし、少年連盟発行のプラハンドブックや、子供向け書籍などを利用したご法話をします。時には紙芝居などを使って子供達に仏さまのことや仏教的なものの見方のお話などもします。その後はおやつを食べて遊びの時間です。遊びの時間と言っても、基本的には見守るだけ。子供達が自分で色々遊びを考えていきます。一応ボードゲームやトランプ・カルタなども用意はしてありますので、一緒になって楽しめます。遊びの先導者になつてくれるのは中学生の子供達です。時には高校生になった子供達も顔を出してくれます。その子供達に任せながら、大人は子供と一緒に遊ばせてもらいます。

夏になるとサマースクールの開催です。一泊二日のお泊まりを基本として開催しますので、子供達は夏が来るのを楽しみに待っていてくれるようです。

ここでも基本的に住職含め大人は裏方に徹します。ここ数年は、事前に日曜学校卒業生の高校生や大学生に連絡を取って、こ



す。夜は本堂中にみんなでふとんを敷いて映画鑑賞しながらの就寝です。

これもお兄さんお姉さん達が指導を買って出てくれます。と言いつのも、ずっと変わらず同じようなことを定番として続けているので、みんな経験者だからできることなのです。

夕食はお母さん達が作ってくれたカレーを食べ、お父さん達の運転で銭湯へ行きます。銭湯から帰ったらかき氷のお出迎え。時にサーブスで打ち上げ花火の鑑賞などもありま

れる時間だけでも良いのでスタッフとしてお手伝いを頼みます。ご褒美は、スタッフコーナーでのお菓子やジュースのおふるまいです。

内容としては、1日目のお昼過ぎに集合し、まずは開校式。お勤めをしてご法話をし、オリエンテーションとして、注意点などを伝えます。ここでもあまり口うるさくするのはなく、みんなで楽しく怪我なく1日を過ごしましょうという事を伝えます。

その後は夕飯の時間まで自由時間を取ります。境内に大きなプールを設置しますので、水遊びをしたい人はする。本堂でゴロゴロしたい人はする。クラフトとして玉ビーズを使った腕輪念珠づくりや、プラバンのキーホルダーづくりなどの準備もしておきます。



2日目はラジオ体操をしますがここでもお兄さん達がお手本になってくれます。その後お朝じを勤めて、朝ご飯。おにぎりやおかずをバイキング形式で食べます。その後は10時ぐらいまでまたクラフトや遊びを好きにやらせて、最後に閉会式をして解散です。難しいことは大してしていないつもりです。

サマースクールなどで頭を悩ませる方もいると聞きますが、毎年目新しいことを盛り込もうと頑張りすぎなのではないかな？と思います。意外と子供達は定番のことを喜びます。教徳寺へ行けばアレがある。というように受け取っていてくれるようでするので、言い方は悪いですが、住職としては

とても楽をさせてもらっています。しかしこれが続けていくコツだと私は考えます。また、同じようなことを続けてきたので、卒業生も関わりやすく、サブリーダーとしてスタッフがしやすいとも言ってくれます。

実は今年の夏は私の体調が優れず、あまり先導できなかったのですが、中学生の子供達が何も言わずとも率先してプログラムを進めてくれました。とても有り難いことでした。

頑張りすぎず、定番になるように淡々と続けていく、そういう活動を続けていくことが子供達の安心に繋がり、また巣立った子供達が帰って来やすい居場所になるのではないかと考え、教徳寺のスタイルとしています。

〜キッズ・サンガをさらに〜と謳う子ども若者ご縁づくりの基本形になってはいるかな、と思いつながら今後も変わらず続けていこうと思っています。



2016(平成28)年  
5月28日(土)

# 750回大遠忌法要 新築落成慶讃法要(第25代専如門主御親修) ご報告



5月28日(土)

10時 帰敬式  
13時 稚児行列  
13時30分  
親鸞聖人 750回 法要  
大遠忌  
並びに 岐阜別院本堂修復 法要  
香光殿新築落成慶讃  
御親教  
随行长挨拶  
15時 記念布教  
徳永 一道師  
(本願寺派勸学寮頭)  
18時 記念のつどい  
(於: 岐阜グランドホテル)



徳永一道師による記念布教



子どもで賑わう境内イベント



稚児出発準備



親鸞聖人750回大遠忌法要 記念のつどい  
岐阜別院本堂修復・香光殿新築落成慶讃法要

記念のつどい



完成した諸建物

2016(平成28)年  
5月29日(日)

# 岐阜教区・岐阜別院 親鸞聖人 並びに岐阜別院本堂修復 香光殿

5月29日(日)

10時 帰敬式

13時 稚児行列

13時30分

親鸞聖人 750回 法要  
大遠忌

並びに 岐阜別院本堂修復 法要  
香光殿新築落成慶讃

御親教  
随行長挨拶

15時 記念布教

宮崎 哲弥 師

(評論家)

15時 中川ひろたかファミリーコンサート  
(於：岐阜市民会館)



香光殿サテライト堂場



帰敬式



400名を超える稚児行列



講社連盟による餅撒き



中川ひろたかファミリーコンサート



眞實信心の行人は、攝取不捨のゆゑに正定聚の位に住す。このゆゑに臨終まつことなし、来迎たのむことなし。信心の定まるるとき往生また定まるなり。来迎の儀則をまたず。

今年の8月、ちょうどお盆が近づいてきたところにこんなことがありました。私は平日デイサービスセンターで勤務しているのですが、そのデイサービスセンターで散歩に出かけた際の出来事です。6人の女性利用者の方と出発し暫くするとこんな話になりました。

「え？あんな今年で96歳になるのかな、こんな散歩に出るほど元気だと100歳まであつという間やな」と一人の女性が話かけると「そうよ、そやけどいずれ死ぬときはやっぱり、ぴんぴんころりがいいな」と96歳になる女性が返答され、続けて「今から15年も20年も寝込んだら家族に迷惑がかかってしまうでな」と言われました。私は横で96歳の方が今から20年寝込

んでも十分すごい事だけだな。と思いがらみんなやっぱ理想はぴんぴんころりなんだなと話を聞いていました。そして私が「もうすぐお盆になるけどみんな自分のご先祖さまの亡くなる時を思い返して、自分もぴんぴんころりがいいと思うの？」と聞くと「いいや、実際私の親はぴんぴんころりではなかったなあ」「あくまで理想、残念ながら実際はそういかんこのほうが多いさ」と笑って話されました。日常によくある何気ない会話だったのですがホントにその通りだなと思いついておりました。

多くの方に自分の理想とする命のしまい方があるかと思いますが、私にも理想のしまい方があります。生まれたお寺の本堂で亡くなり老衰。妻、子ども、孫、ひ孫に囲まれて南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏とお念仏の中で亡くなつていくという理想です。しかし、デイサービスセンターで利用者の方と話している中で、自分の亡くなり方の理想を持つ事、それに向かつて準備する事は大切かもしれないけれど、理想の命のしまい方を人生の依りどころにしてはいけないと感じました。私にとって良い事も悪い事も中々予

定通りにはいかない。それは当然死の迎え方もそうです。想定外の事がたくさんあります。今日一日を振り返っただけでも予想外のことがたくさん起きています。私はそんな世界に生かされているんだな。そんなことを考えるようになりました。

そんな私に、親鸞聖人は阿弥陀様の救いは自分の理想の臨終を迎えられるかどうかを問題としませんよ。ということをお話して下さいます。阿弥陀様の必ず救うという願いは、臨終になって初めて私のもとに届けられるのではなく、今まさに届いています。自分で理想の命のしまい方を持ち、その理想を依りどころとして日々生活するのではなく、今届いている阿弥陀様の救いを依りどころとして南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏とお念仏の日暮らしをさせていただくこと。それが何より大切なことではないかとデイサービスセンターでの出来事をきっかけとして味わわせていただきました。

飛騨組眞光寺

浄土真宗本願寺派布教使

森下 広大

## 「御同朋の社会をめざす運動」の願い

永年に亘る宗門の取り組みは、「差別・被差別からの解放」を願いの根幹として推進されてきました。2012年度より、「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」と名称変更し今日に至っていますが、根幹とする願いは、本質的には何ら変わるものであってはなりません。つまり「一切のいのちが選別・排除されることのない社会」「自身の努力や精進によって如何ともしがたい理由によって、偏見・差別されることのない社会」は、阿弥陀如来の願い(本願)にはかならないからです。

岐阜教区においては、特に重点的に取り組む実践目標を、「信心の社会性」念仏者として生きる」と設定して継続した取り組みを推進しています。そもそも実践運動は、私たち一人ひとりが、念仏者としていかに生きるかが問われ続ける運動にほかなりません。

しかしながらこの数年間にも、教団においては、「安芸教区過去帳に類する帳簿開示問題」「2012・2013年度第一連区布教使研修会差別発言問題」等々、一

人ひとりが、念仏者としての生きざまを問われる重大な事件・問題等が惹起している現実があります。こうした差別の現実を通して、「新」差別事件糾明のための「方途」や「過去帳又はこれに類する帳簿の取扱基準」が改訂され、学習冊子の作成がなされました。現在も全国各教区・各組において、前述の「新」差別事件糾明のための方途」や学習冊子などをもとにして、研修が重ねられています。もちろん、岐阜教区及び各組においても、僧侶・門信徒が共に「御同朋の社会」をめざしてのさなる研修・学習が求められています。

昨今、依然として巧妙な手段によってなされる「身元調査」を初めとして、「ヘイトスピーチ」や「災害時における重大な人権侵害・差別」「貧困・格差」「虐待・いじめ」等々、急速な社会変化に伴う新たな問題・課題が増大している現状があります。寺院に集約するさまざまな情報・門信徒の方々の個人情報、差別に加担する形で利用される危険性に晒されている現実があります。

本年度より、従来の「僧侶研修会」は、「人権啓発推進僧侶研修会」へと変更されています。教区及び各組はもちろんのこと、各教化団体の研修のあり方が問われてい

ます。従来、岐阜教区内各組においては、多くが「日常の寺院活動」を実践目標に掲げていますが、「差別・被差別からの解放」「人権」を中心に据え、僧侶・門信徒がともに取り組みを推進することが今まで以上に求められています。

また、キッズサンガ推進委員会は、今後「子ども若者」縁づくり推進委員会」と名称変更し、活動への期待がさらに高まっています。こうした取り組みを通して、あらゆる活動において、世代や各教化団体という枠組み・組織を超えたゆるやかな繋がりが不可欠であることが、より顕著になっています。

取り組むべき課題は山積していますが、念仏者としていかに生きるかを自身に問い続け、共々に実践運動推進に邁進したいものです。

華陽組等光寺

御同朋の社会をめざす運動

岐阜教区委員会副委員長

小川 眞理子

